

取り組み強化で再発防止を徹底 安全意識向上に成果

公益社団法人
安城市シルバー人材センター

(愛知県)

安城市SCは、「令和5年度安全就業シルバー人材センター優秀賞」を受賞した。安全・適正就業委員会が中心になり、安全パトロールに取り組んだり、「安全ニュース」を発行したりと事故防止対策を積み重ね、事故発生を抑制してきたことが評価された。さらに取り組みを強化するとともに、安全意識の向上につながる対策や、会員の健康づくりに向けた健康講座を始めた。

安城市SCは、「令和5年度安全就業シルバー人材センター優秀賞」を受賞した。

センターは昭和56年に設立された。これまでに、「平成14年度愛知県優良シルバー人材センター」「平成27年度全国安全就業優良シルバー人材センター」「平成28年度愛知県優良シルバー人材センター」「令和2年度全国優良シルバー人材センター」を受賞しているが、「安全就業」に関して上位の表彰である「優秀賞」は初めてである。

近年の事故件数は、令和2年度で13件(傷害事故6件・物損事故7件)、令和3年度で17件(同7件・同10件)、令和4年度で15件(同10件・同5件)、令和5年度で12件(同

5件・同7件)となっている。センターでは、事故ゼロを目指して、安全・適正就業委員会(以下、委員会)が中心となり、年度計画を立てて、安全パトロールや安全就業標語の募集などに取り組むほか、「安全ニュース」の発行(随時)、事故発生時には事故内容を分析して対策を話し合い、周知して再発防止に努めるなど多様な取り組みを展開している。委員会は、理事2人、会員から選ばれた委員3人、安全・適正就業推進員1人の計6人で構成されている。

事故の再発防止に向けて

重大な事故が発生した場合、委員会を開催して事故を起こした会

員から直接、事故の状況や要因を聞き、再発防止対策を話し合うことにしている。そして、関連する職種の就業会員に直ちに対策を周知して注意を喚起するとともに、「安全ニュース」やホームページに掲載して再発防止を呼び掛ける。また、委員会では年間の事故発生状況から翌年度の重点テーマを決めて取り組みを実施しており、令和4～5年度は、次のことに重点を置いて対策を強化し、成果を上げた。

● 飛び石事故対策

令和3年度に草刈り作業中の飛び石事故が多発したため、飛び石事故の防止対策に力を入れた。具体的には、石の飛び散りを抑

制する草刈り刃「無双ツインブレード」を新たに導入し、就業班ご

とに最低1台は導入。取り扱い講習会を開催し、事故の発生が予想される場所ではこれを使用して「石を飛ばさない」対策を講じた。その結果、令和4年度は飛び石事故ゼロを達成した。しかし、令和5年度は飛び石事故が2件発生。原因を探ると、対策が甘くなり無双ツインブレードを使用していない現場があった。そのため、事故を起こした会員を委員会に呼んで注意を喚起するなどして、改めて対策の徹底を図った。

● 会員の安全意識向上

令和4年度の事故を職別別に見ると、剪定が5件(傷害2件・物損3件)と最も多く発生していた。そのうち傷害事故の1件は、年度末の令和5年3月に発生し、大きな事故となった。剪定作業中、脚立から約1.5m落下した会員が骨盤を折り、1か月以上の入院となった。わずかな気の緩みが要因

だったという。

この事故を重く受け止めて、特に剪定班に対し、安全意識向上と安全就業基準の順守を改めて徹底した。現場では必ず就業前ミーティングを行い、安全・不安全を確認するKY(危険予知)活動を徹底した。その結果、令和5年度は剪定班での事故は発生していない。

重大事故の発生により 取り組みを強化

令和4年度に起きた重大事故を重く受け止めて、令和5年度から次の取り組みを強化、または追加した。

● 安全パトロール

安全パトロールは、以前は1年に3～4回、事前に行くことを伝えて実施していたが、令和5年度から毎月1回、パトロール先は当日まで決めず、抜き打ちで行うことにして実行している。

パトロール先では、安全就業基準が順守されているか、チェック

リストに沿って確認する。また、会員に基準を守ってもらうため、安全就業基準を印刷して、剪定班と草刈り班の就業班ごとに配布。現場に携行できるように、ラミネート加工をして丈夫にしたものを配った。安全就業基準の周知を徹底するために、工夫したそうだ。

安城市SCの職員で安全就業を主に担当する上田佳弥主事は、「パトロール活動で作業現場へ行くとうれしそうに仕事の話をしてくれる会員がほとんどです。現場へ行くことが大事だと思いますし、安全に対してより気を引き締めてもらう上で効果があると感じています」と話す。

● デジタル化を推進

事故の周知や注意喚起などをリアルタイムで行えるよう、令和5年度から剪定班など各班のLINE公式アカウントを作成した。従来は、電話やショートメールなどで連絡していたが、LINEの活

ヒヤリ・ハット体験などについて、会員相互の情報共有がしやすくなり、安全意識の向上につながっているという。

上田主事は、「LINEを使うことに当初は反発の声もあったのですが、剪定班に集まってもらい、重大事故の再発防止の徹底を図りたいと丁寧に説明しました。情報発信だけでなく、天候のことなども日常的に発信しています。安全に働いてほしいという、職員の思いも伝えていきたい」と積極的に発信していると話す。

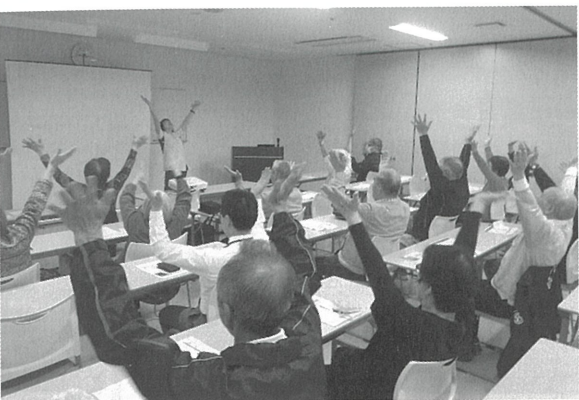
スマートフォンを持つ会員が増えてきているので、今後はセンター全体でさらにデジタル化を進めていきたいと考えている。

また、令和6年5月にはホームページをリニューアルして、会員専用ページを新たに作り、事故発生時の情報共有を図る上でも活用している。

● 「安全ニュース」

「安全ニュース」は、委員会の

市内の病院の協力を得て、令和5年度から健康講座を開催。ロコモについての講座やロコモ度テストなどを実施した



市内の病院の協力を得て、令和5年度から健康講座を開催。ロコモについての講座やロコモ度テストなどを実施した

事業運営状況

(平成30年度～令和4年度)

年度	会員数		計	相入会率 %	就業実人員 (延人員) (人日)	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男	女							
平成30	602	403	1,005	2.1	984 (134,554)	97.9	3,730	446,842	44.7/55.3
令和元	638	406	1,044	2.1	986 (134,863)	94.4	3,490	473,626	43.9/56.1
2	663	420	1,083	2.2	1,009 (135,572)	93.2	3,344	509,392	46.0/54.0
3	657	439	1,096	2.2	1,036 (137,971)	94.5	3,559	519,898	44.5/55.5
4	642	426	1,068	2.1	1,052 (139,229)	98.5	3,741	543,371	44.6/55.4

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は請負・委任と労働者派遣事業が対象
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む

ころ、「家の近くで短時間」といった働き方を望む声が多く上がったという。この希望をかなえるセンターづくりを進めていくことも、会員の安全就業のために欠かせないと考えている。
 (増山美智子)

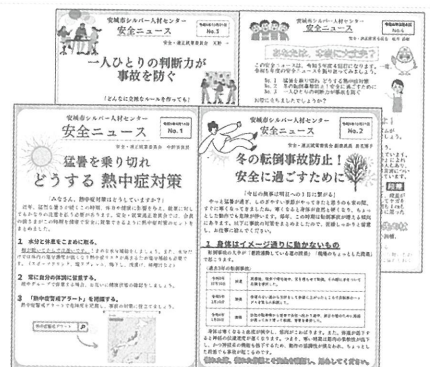
健康講座を開始。令和5年度は3回開催した。
 健康講座は、保健師による熱中症やロコモ（ロコモティブシンドローム）骨や筋力が弱くなり、立つたり座ったりするのが難しくなること）対策の講座をはじめ、ロコモ度テスト、骨密度の測定などを実施した。特に、骨密度の測定が会員から好評で、今後も継続し

て開催していきたいとしている。
安心・安全な働き方を考える
 事故ゼロを目指すためのさまざまな取り組みは、安全・適正就業委員が率先して行っており、上田主事は、「委員も就業をしています。職員として、できる限り支えています。職員として、できる限り支えています。職員として、できる限り支えています。職員として、できる限り支えています。」と語る。事務局では、引き

続きデジタル化を推進し、安全意識を高めることなどにつなげていきたいという。このデジタル化の取り組みや上田主事の職員としての思いには、愛知県SC連合会が行っている職員交流研修に参加して学んだり刺激を受けたりして得たものが生きているそうだ。
 小笠原浩一常務理事兼事務局長は、今後の取り組みについて、「会員が安心して安全に就業できる環境づくりに努めていきます」と事務局の役割を述べた。そのためには、受注する仕事内容や働き方について、「10年前と同じではなく、現在の会員の年齢に見合ったものに改める必要がある」として、取り組みを進めているとも語った。
 会員の平均年齢は、約10年前の平成25年度の71・6歳に対し、令和6年1月末日時点では74・6歳に上がっている。
 そこで、会員がどのような働き方を希望しているかを把握するために会員アンケート調査をしたと

安全就業標語の募集、熱中症対策などにも取り組む
 事故ゼロを目指して、できる対策は講じていきたいとして、委員会と事務局とで連携し、次のことにも取り組んでいる。
 ●安全就業標語の募集、選定
 安全意識の向上を図ることを目

的として、安全就業標語を会員から毎年募集している。令和5年度は応募総数240点の中から、委員会にて審査して最優秀作品と優秀作品を選定。7月に表彰式を開催した。
 最優秀賞には、藤田祐子さんの「甘くみるな！ 老いてるぞ！ ころぶなよ！」が選ばれた。
 標語は、センター会報「シルバールーあんじょう」安全ニュース、チラシなどに掲載し、掲示板にも張り出して活用している。



安全・適正就業委員会が発行している「安全ニュース」

令和5年度安全就業標語表彰式。会員の藤田祐子さんが最優秀賞を受賞した



令和5年度安全就業標語表彰式。会員の藤田祐子さんが最優秀賞を受賞した

令和4年度に発生した傷害事故10件のうち5件が転倒事故であった。加齢による筋力などの衰えが要因と思われる事故が増加傾向にあるという。そこで令和5年度から、センターの賛助会員でもある市内の八千代病院の協力を得て、

令和5年度安全就業標語表彰式は、地元ケーブルテレビ局の取材を受けて、ニュース番組内で放送された。
 ●熱中症対策
 会員を対象として、冷感スカーフ、UVカット機能のあるベストや帽子、フェースカバーの貸与を実施。加えて、ファン付き空調ベストをセンターが購入希望者を募って代理で購入し、熱中症の未然

防止に努めた。
 また、原則として1人就業を禁止しているが、1人ならざるを得ない場合は、熱中症や事故発生時の早期発見のために防犯ブザーを貸与している。
 ●自転車保護帽の着用促進
 センターは、令和4年度に愛知県から「ヘルメット着用促進モデルセンター」に認定された。愛知県から支給された保護帽と、センターが市の補助金を活用し、購入希望者を募って代理で購入したものを、合わせて約90個の保護帽を会員に提供した。また、自転車講習会も開催した。

健康講座を開催
 令和4年度に発生した傷害事故10件のうち5件が転倒事故であった。加齢による筋力などの衰えが要因と思われる事故が増加傾向にあるという。そこで令和5年度から、センターの賛助会員でもある市内の八千代病院の協力を得て、